

(再評価)

しらおいこう ほんこう ち く
白老港 本港地区国内物流ターミナル整備事業

再評価原案準備書説明資料

令和3年度
北海道開発局

目 次

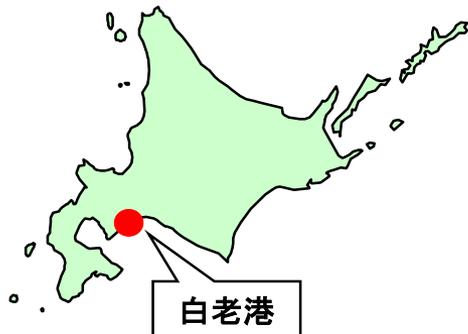
1. 事業の概要	1
2. 事業の必要性等	3
3. 事業進捗の見込み	12
4. 地方公共団体等の意見	13
5. 対応方針(案)	14

1. 事業の概要

(1) 事業の目的

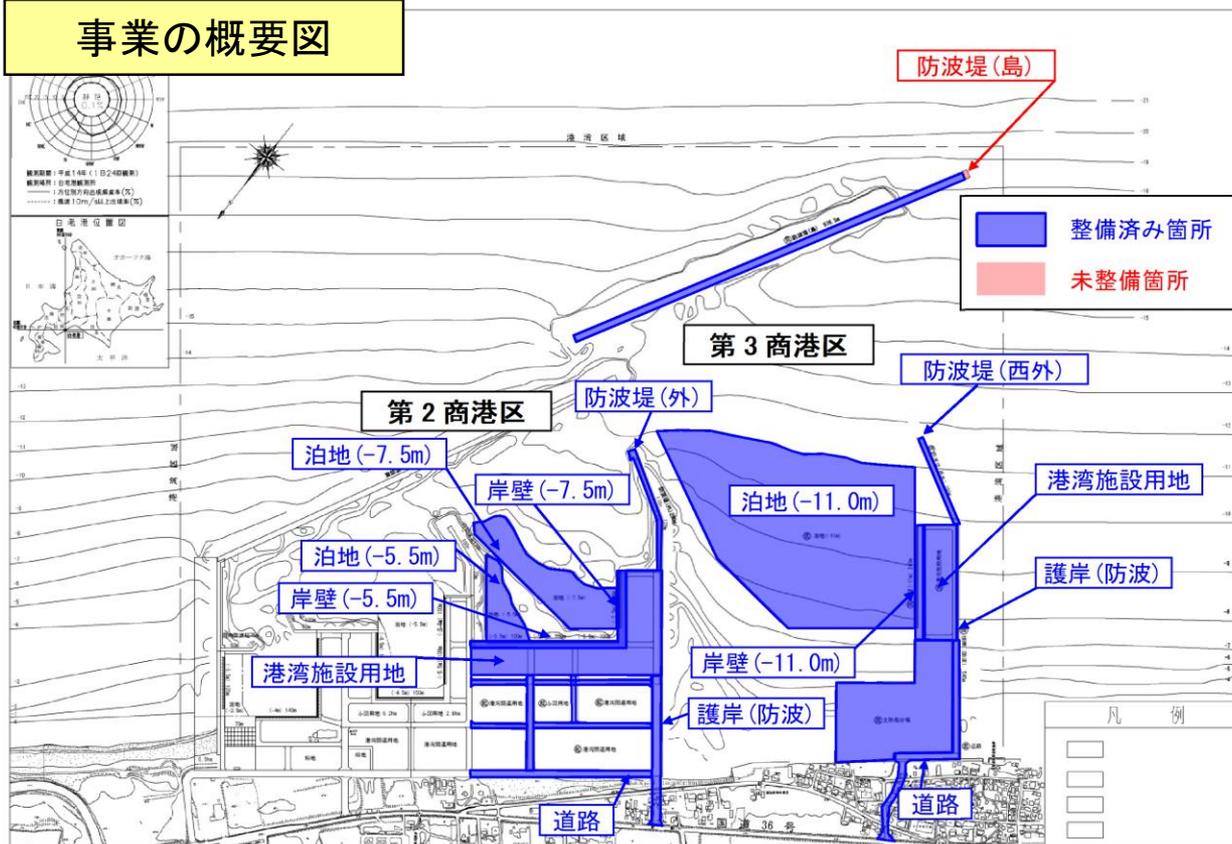
- 白老港は、北海道南西部の太平洋に面し、白老町が管理する地方港湾。
- 本事業の目的は、大型バルク船対応の係留施設の整備による輸送効率化及び防波堤の整備による沖合航行船舶の安全な避泊水域の確保。

位置図・航空写真



白老港 全景 (H28.8撮影)

事業の概要図



1. 事業の概要

(2) 計画の概要

事業主体		施設名	規模	整備期間
国	—	防波堤(島)	976.5m	H4～R8
	第2 商港区	岸壁(-7.5m)	130m	H5～H12
		岸壁(-5.5m)	300m	H5～H12
		泊地(-7.5m)	20,700m ²	H5～H11
		泊地(-5.5m)	13,000m ²	H11
		防波堤(外)	290m	H5～H15
		護岸(防波)	265m	H3～H12
		港湾施設用地	38,000m ²	H5～H12
		道路	1,885m	H12～H16
	第3 商港区	岸壁(-11m)	240m	H17～H24
		泊地(-11m)	191,000m ²	H17～H25
		防波堤(西外)	220m	H17～H30
		護岸(防波)	545m	H17～H24
		港湾施設用地	18,700m ²	H17～H25
		道路	1,048m	H17～H25

○総事業費 438億円

○残事業費 10億円

○整備予定期間 平成3年度～令和8年度

○整備進捗率 98%

(3) 経緯

1991(平成3)年度	事業採択
1992(平成4)年度	現地着工
2000(平成12)年度	再評価の実施
2001(平成13)年度	岸壁(-7.5m)・(-5.5m)供用開始
2005(平成17)年度	再評価の実施
2007(平成19)年度	再評価の実施
2010(平成22)年度	再評価の実施
2013(平成25)年度	再評価の実施
2016(平成28)年度	再評価の実施
2021(令和3)年度	再評価の実施
2026(令和8)年度	事業完了予定

2. 事業の必要性等

(1) 事業を巡る社会情勢等の変化

【対象港湾周辺の動向】



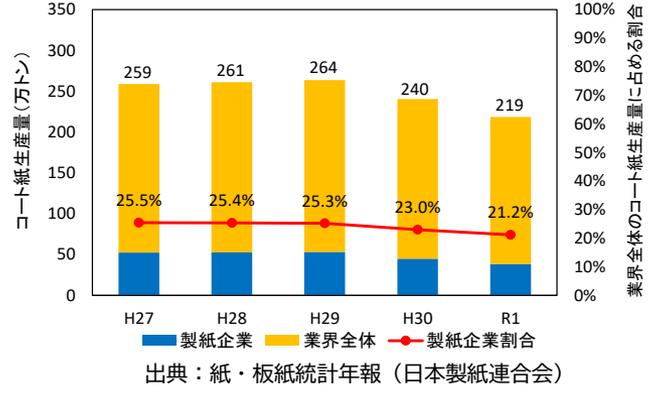
2. 事業の必要性等

(2) 事業の整備効果(基幹産業(製紙業)の支援)

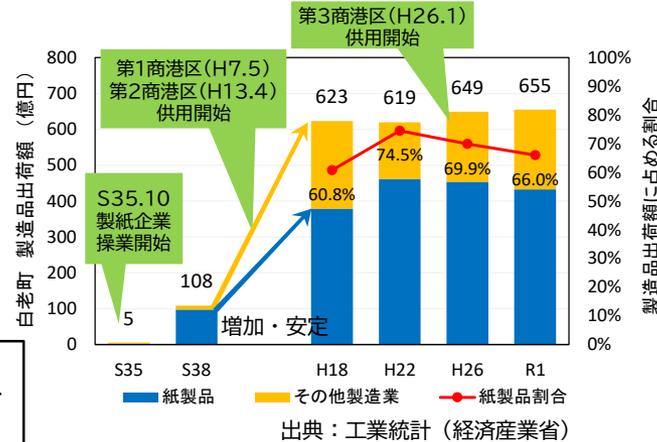
- 国内大手製紙企業は、昭和35年から白老港背後において紙生産を開始。平成8年からは、雑誌、ポスター、カレンダー等に用いられるコート紙の生産を開始。現在は、白老での生産を含むコート紙生産量が業界第1位(企業シェア約2割)であり、生産拠点の一つとして重要な役割を担っている。
- 白老港における防波堤及び岸壁の整備により、原材料移入や製品移出の輸送効率化が図られ、白老町製造品出荷額の約7割を占める製紙業の支援とともに、約300名の従業員を抱える製紙企業の事業継続に伴う地域への経済波及効果が期待される。



業界全体における製紙企業のコート紙生産割合



白老町における製造品出荷額の推移



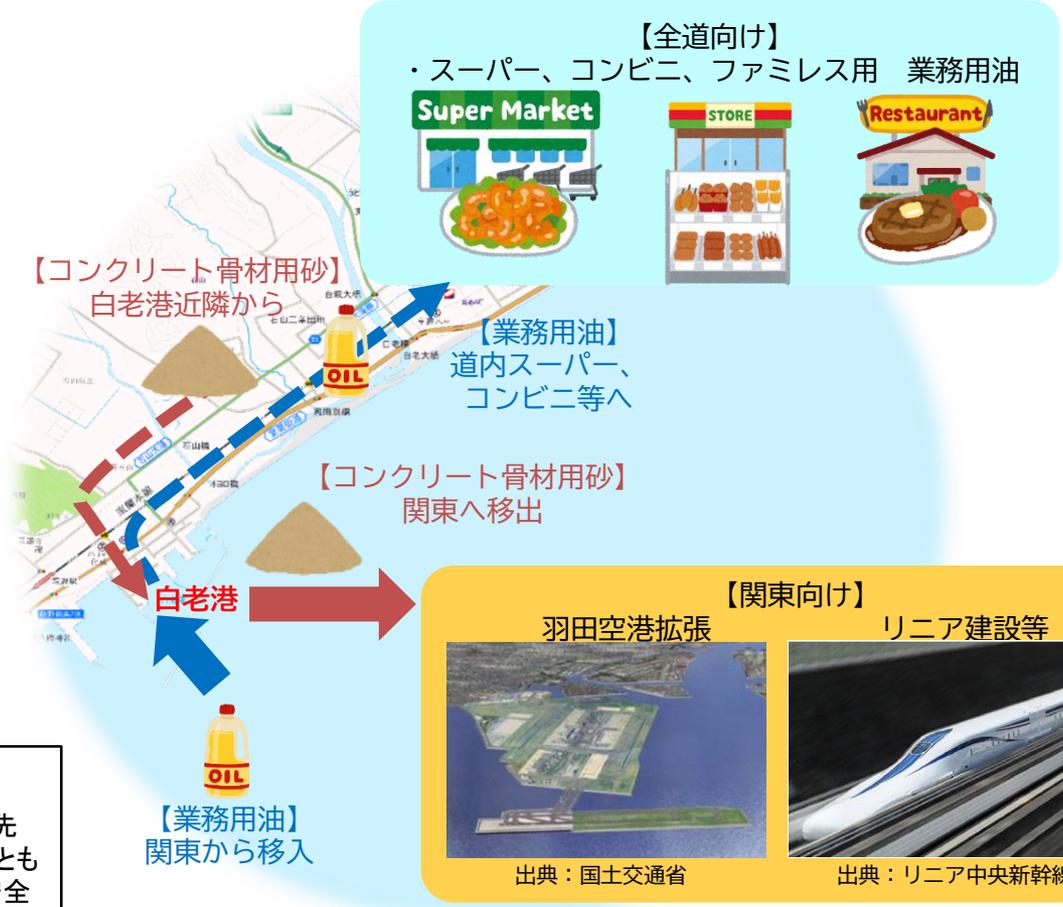
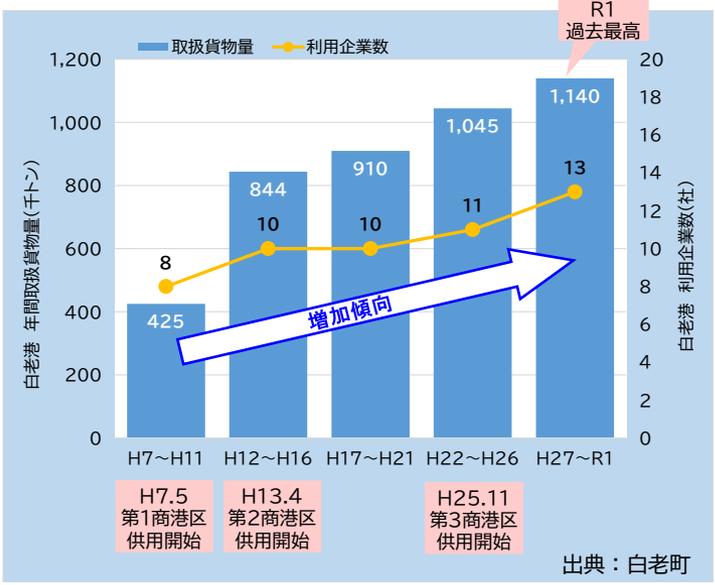
■地域の声(R2:製紙企業)
・白老港の整備により、大型船により安定的に原材料移入及び製品支出が効率的に行うことができます。引き続き整備を促進していただき、より使いやすい白老港になることを期待します。

2. 事業の必要性等

(2) 事業の整備効果(取扱貨物の多様化)

- 白老港は、平成4年の現地着工以降、第1～3商港区を段階的に供用させており、それに伴い港湾利用企業数及び取扱貨物量が増加(道内地方港湾における取扱貨物量が13年連続1位)。
- 白老港における防波堤及び岸壁の整備により、民間企業の進出が促進されることから、道内外の生活基盤を支える多様な企業の物流効率化が期待される。

白老港利用企業数推移及び取扱貨物量の推移



■地域の声(R2: 食品運送企業)

・白老港の整備により、自社タンクの拡張が可能となり、取引先増加に対応することができました。また、荷役が効率化するとともに積み替え時の異物混入が回避されるなど、高品質な油を安全に道内各地へ輸送することが可能となりました。

2. 事業の必要性等

(2) 事業の整備効果(クルーズ船寄港による観光振興)

- 白老町は、支笏湖や登別温泉等の観光地へのアクセス性に優れているほか、洞爺湖サミットの晩餐会に提供された「白老牛」等、食に関する魅力も有するなど、クルーズ寄港地としてのポテンシャルは高い。
- 白老港における防波堤及び岸壁の整備により、平成29年5月にクルーズ船の寄港が実現。令和2年7月に開設したウポポイ(民族共生象徴空間)による白老町の魅力向上と合わせて、クルーズ船寄港数の増加による経済波及効果が期待される。



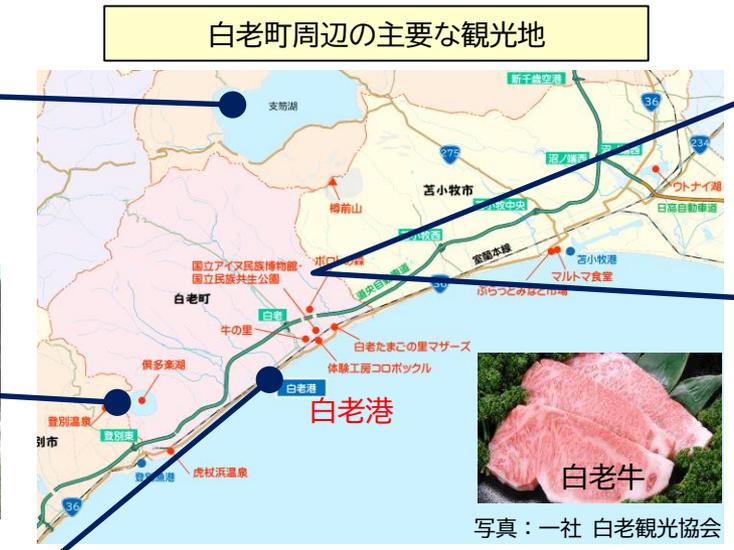
支笏湖



登別温泉



ぱしふいっくびいなす寄港 (H29.5)



写真：一社 白老観光協会

北海道におけるクルーズ船寄港実績



出典：北海道クルーズ振興協議会

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

ウポポイPRキャラクター
トウレツポん

・アイヌ文化の復興や民族の共生を目的として、「民族共生象徴空間」(愛称：ウポポイ)が令和2年7月に誕生。主要な施設として、アイヌ文化の多彩な魅力に触れることができる国立アイヌ民族博物館と国立民族共生公園が整備。

国立アイヌ民族博物館

アイヌ古式舞踊

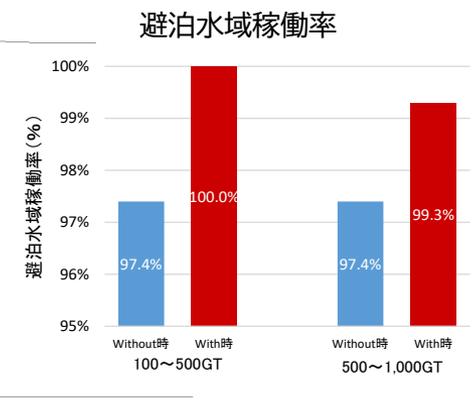
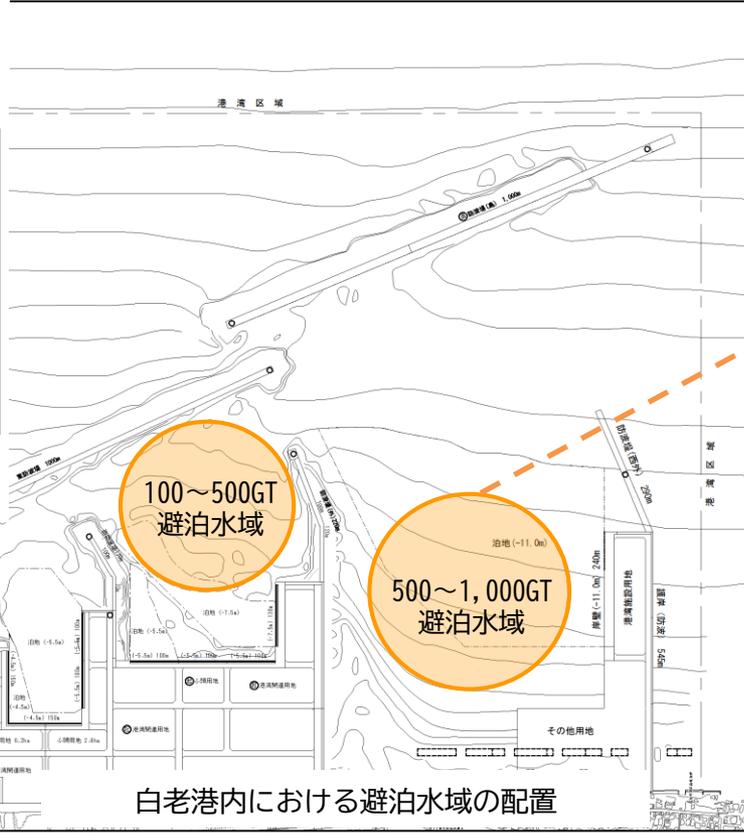
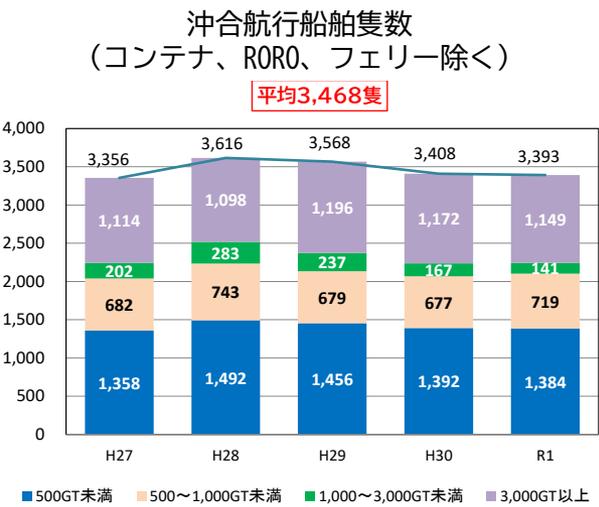
2020.7.12 OPEN
アイヌの世界と出会う場所。(北海道・白老町)
Hokkaido-Shiraoi
ウポポイ
民族共生象徴空間

■地域の声(R3:アイヌ民族文化財団)
・白老港へのクルーズ船寄港により、ウポポイに多くの観光客が来場し、アイヌ文化の復興・発展に繋がることを期待しています。

2. 事業の必要性等

(2) 事業の整備効果(沖合航行船舶の安全性向上)

- 白老港を挟んだ東西には、国際拠点港湾である室蘭港と苫小牧港が位置しているため、白老港沖合には数多くの船舶が航行。
- 白老港における防波堤の整備により、沖合を航行する船舶の避難が可能となり、海難の減少が期待される。



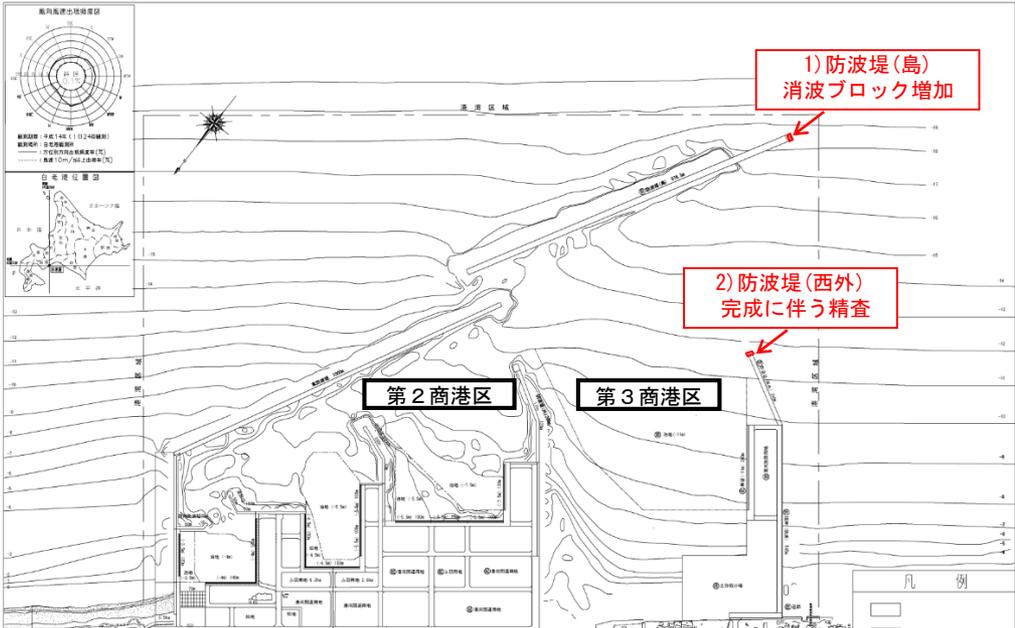
■ 地域の声(H28: 港湾管理者)

- ・防波堤整備により避泊水域を設けることができ、沖合を航行する船舶の受入が可能となることは、白老港の機能・役割が一層増加すると認識しています。

2. 事業の必要性等

(3) 事業の投資効果(全体事業費・事業期間の変更)

- 1)防波堤(島): 現地測量の結果、消波ブロック数量が増加したため、事業費5.6億円増加。
ブロック製作における利用・施工面の制約を受けたため、事業期間5年延伸。
- 2)防波堤(西外): 完了に伴う精査により、事業費0.2億円減少。



前回評価(H28)	今回評価(R3)	増減額
432.6億円	438.0億円	+5.4億円
前回評価(H28)	今回評価(R3)	増減年数
平成3年～令和3年	平成3年～令和8年	+5年

2. 事業の必要性等

(3) 事業の投資効果(費用便益分析 ～事業全体～)

●条件 基準年:令和3年度 供用期間:50年

●総費用(現在価値化後) (億円)

費用内容	総費用
○建設費	1,030.3
○管理運営費	4.4
合計	1,034.7

●総便益(現在価値化後) (億円)

便益内容	便益費
○陸上輸送コストの削減	362.5
○業務コストの削減	4.7
○海難の減少	893.5
○残存価値	11.3
合計	1,272.1

※端数処理のため、各項目の金額の和は、合計欄に記入している数字と必ずしも一致するとは限らない。

●算定結果

費用便益比 (CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{1,272.1}{1,034.7} = 1.2$
----------------	---

●感度分析

変動要因	基本ケース	変動ケース	費用便益比
需要	1.2	±10%	1.2~1.3
事業費	1.2	±10%	1.2~1.2
事業期間	1.2	±10%	1.2~1.2

2. 事業の必要性等

(3) 事業の投資効果(費用便益分析 ～残事業～)

●条件 基準年:令和3年度 供用期間:50年

●総費用(現在価値化後) (億円)

費用内容	総費用
○建設費	8.2
合計	8.2

●総便益(現在価値化後) (億円)

便益内容	便益費
○海難の減少	11.1
○残存価値	0.1
合計	11.3

※端数処理のため、各項目の金額の和は、合計欄に記入している数字と必ずしも一致するとは限らない。

●算定結果

費用便益比 (CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{11.3}{8.2} = 1.4$
----------------	--

●感度分析

変動要因	基本ケース	変動ケース	費用便益比
需要	1.4	±10%	1.2~1.5
事業費	1.4	±10%	1.3~1.5
事業期間	1.4	±10%	1.3~1.4

2. 事業の必要性等

(3) 事業の投資効果(費用便益分析 前回評価との比較)

		H28再評価時点	R3再評価時点	備考 (前回評価からの主な変更点)
事業費(億円)		433	438	・消波ブロック数量増加による増
整備予定期間		平成3年度～ 令和3年度	平成3年度～ 令和8年度	・消波ブロック数量増加及び施工能力低下による増
便益の対 象となる 需要予測	便益対象 貨物	208万トン/年 (令和4年度)	110万トン/年 (令和9年度)	・貨物需要予測の見直しによる減
	避泊回数	2隻 8.6回/年 (100～500GT、 500～1,000GT 各1隻)	2隻 8.6回/年 (100～500GT、 500～1,000GT 各1隻)	
便益(現在価値化後) (億円)		1,051	1,272	
B/C		1.4	1.2	

3. 事業進捗の見込み

○平成3年度から令和3年度までの整備状況

(事業費:億円、数量:m、m²(泊地・用地のみ))

施設名		全体事業	実施済	残事業	進捗率 (%)	備考	施設名		全体事業	実施済	残事業	進捗率 (%)	備考
岸壁(-11m)	事業費	28	28	—	100.0	完了	防波堤(島)	事業費	175.2	165.1	10.1	94.2	継続
	数量	240	240	—				数量	976.5	920.2	56.3		
岸壁(-7.5m)	事業費	11.7	11.7	—	100.0	完了	防波堤(外)	事業費	34.1	34.1	—	100.0	完了
	数量	130	130	—				数量	290	290	—		
岸壁(-5.5m)	事業費	18.1	18.1	—	100.0	完了	防波堤(西外)	事業費	28.0	28.0	—	100.0	完了
	数量	300	300	—				数量	220	220	—		
泊地(-11m)	事業費	25.2	25.2	—	100.0	完了	護岸(防波)	事業費	81.5	81.5	—	100.0	完了
	数量	191,000	191,000	—				数量	810	810	—		
泊地(-7.5m)	事業費	1.5	1.5	—	100.0	完了	港湾施設用地	事業費	20.1	20.1	—	100.0	完了
	数量	20,700	20,700	—				数量	56,700	56,700	—		
泊地(-5.5m)	事業費	1.1	1.1	—	100.0	完了	道路	事業費	13.6	13.6	—	100.0	完了
	数量	13,000	13,000	—				数量	2,933	2,933	—		

※「数量」は、現場着工した整備施設の事業費による換算数量とし参考値とする。

○事業の進捗の見込み

本事業にかかる関係機関との調整は整っています。
 事業進捗率は98%となっており、事業が順調に進んだ場合には、
 令和8年度の完了を予定しています。

※事業進捗率は、事業費変更後の進捗率(令和3年10月時点)。

4. 地方公共団体等の意見

期成会等名称	会長等	主な構成メンバー	要望内容
苫小牧地方総合開発期成会	苫小牧市長	苫小牧市、白老町、厚真町、安平町、むかわ町	地方港湾白老港建設事業の整備促進（静穏度対策等）

○港湾管理者（白老町）からの意見

事業評価の内容について特段の意見はありません。

白老港は、取扱貨物量が順調に推移しており、道内23地方港湾中、14年連続第1位の貨物を取り扱っております。

しかしながら、船舶が安全に避泊、係留するための静穏度確保について、引き続き整備が必要な課題があります。

完成へ向けて事業継続いただけますよう、特段のご配慮をお願い申し上げます。

5. 対応方針(案)

- ・白老港本港地区国内物流ターミナル整備事業は、背後圏域における地域経済の活性化のみならず、道内の物流効率化や関東圏における大規模構造物の高質化にも寄与する事業と考えられます。
- ・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案としてお諮りいたします。
- ・引き続き、コスト縮減に取り組むとともに、適正な事業費及び事業期間の管理に努めていきます。